

# コープネットの放射性物質の自主検査

## ～ コープネット商品検査センター ～

福島第一原発事故による放射能汚染は、組合員の皆さんの生活に大きな不安を引き起こしています。中でも、暮らしに不可欠な食品へのご心配は大きく、これまでたくさんのお問い合わせをいただいています。今回は、コープネット商品検査センターでの自主検査についてお伝えします。



## 放射性物質検査の検査方法

検査精度に優れた「ゲルマニウム半導体検出器」と、スクリーニング検査に適した「NaIシンチレーションスペクトロメータ」の2種類の測定器を組み合わせ、より多くのサンプルを精確に検査しています。



「これからも安心してご利用いただけるように、精確な放射能検査を実施していきます」



昨年6月から、5,000検体以上の検査をしています。



泥や根、変色した葉などを取って水洗いする。



水分を拭き取り、可食部を切り分ける。



フードプロセッサで細かく刻み、検体を均質化する。



容器に隙間を作らないよう検体(1検体で約1kg必要)を詰める。

### ● 検査状況については？

農産品を中心に検査を行ない、これまでの検査で福島県産の農産品は「検出せず」の検査結果です。新茶についても集中して検査を行なっているところです。また、これから新米について100検体ほど予定していますが、お米はより収穫した状態での検査を目的に玄米を入手して検査しています。

### ● 検査でむずかしいところは？

可食部を検査しますので梅の種や、魚の骨は手作業で取り除いてからフードプロセッサにかける必要があります。また、放射性物質(セシウム)は筋肉にたまりやすい性質がありますので、肉や魚の筋肉部分を中心に、検査しています。

検査精度に優れた「ゲルマニウム半導体検出器」



検出器を汚染しないよう容器をポリ袋へ入れ、検出器へセット。



検体から発する放射線を電気信号に変えて、セシウム134、セシウム137の濃度測定をします。

約20分で終了

パソコンに検体情報(検体名・産地情報・食品区分など)と、測定条件(重量、測定時間など)を入力し、測定開始。

### ● 精確な検査のために「精度管理」を行なっています。

「精度管理」の取り組みとして、外部機関による精度管理試験の実施や機器校正・日常点検、検査担当者の研修・教育などを行っています。

### ● 家庭の食事に含まれる放射性物質の「摂取量調査」。

家庭の食事に含まれる放射性物質の量について、日本生協連では約300人の組合員からサンプルをいただき「摂取量調査」を行なっています。7月から、そのうち40検体をコープネット検査センターでも検査し始めました。2日分の食事(6食分と間食)を1サンプルとして14時間かけて測定しています。

スクリーニング検査に適した「NaIシンチレーションスペクトロメータ」



詳しくはインターネットで **コープネット** 検索

<http://www.coopnet.jp/radioactive/index.php>



co-op deli

コープデリ





# 福島第一原発事故にともなう 放射性物質問題へのコープネットの対応について

## 自主検査の方法と対象品

●組合員の利用が多く放射能への不安が高い食品を中心に、優先順位をつけて、自主検査<sup>※注1</sup>を行っています。

※注1 自主検査は、厚生労働省の「食品中の放射性セシウム検査法」および「食品中の放射性セシウムスクリーニング法」に基づくものです。

組合員の不安が高いもの  
牛肉、お茶、腐葉土など

国民の摂取量が多い食品  
米、飲料水、牛乳、卵、野菜、肉など

東日本(1都16県)で製造された食品



乳幼児が摂取する食品  
子どもの摂取の多い食品、ベビー用の食品など

季節の商品  
おせち、ギフト

震災以降に収穫された原料を使用した食品

## ●コープネットが実施している放射能自主検査の概要

### コープネットの自主検査方法

食品区分	国の規格基準	検出限界 <sup>※1</sup>	測定方法と測定器の種類	備考
一般食品	100ベクレル/kg	10ベクレル/kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクリーニング検査                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・NaIシンチレーションスペクトロメータ</li> <li>・ゲルマニウム半導体検出器(迅速検査法)</li> </ul> </li> <li>●確認検査                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲルマニウム半導体検出器</li> </ul> </li> </ul>	スクリーニング検査で検出限界(核種毎)を超えて検出があった場合、同一検体についてゲルマニウム半導体検出器による検査精度に優れた確認検査を行います。
飲料水	10ベクレル/kg	1ベクレル/kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乳製品やお子様向けの食品は牛乳、乳児用食品の検査に準じた検査<sup>※2</sup></li> <li>・ゲルマニウム半導体検出器</li> </ul>	検出限界(核種毎)を超えて検出した場合、再検査を行います。
牛乳	50ベクレル/kg	5ベクレル/kg		
乳児用食品				

※1. 検出限界値は、検体の性状や検査時間などにより、変動する場合があります。飲料水に含まれる飲用茶については、飲用に供する状態での検査を基本とします。  
 ※2. 一般食品の中で、特に小さいお子さまの利用が想定される食品(乳製品、乳酸ドリンク、プリンなど)については、一般食品ではなく、乳児用食品の検査に準じた検査(検査精度を重視したゲルマニウム半導体検出器による検査)を行います。

## Q&A

Q. ○○ミリシーベルトと耳にしますが、どのくらいの放射線なのですか？

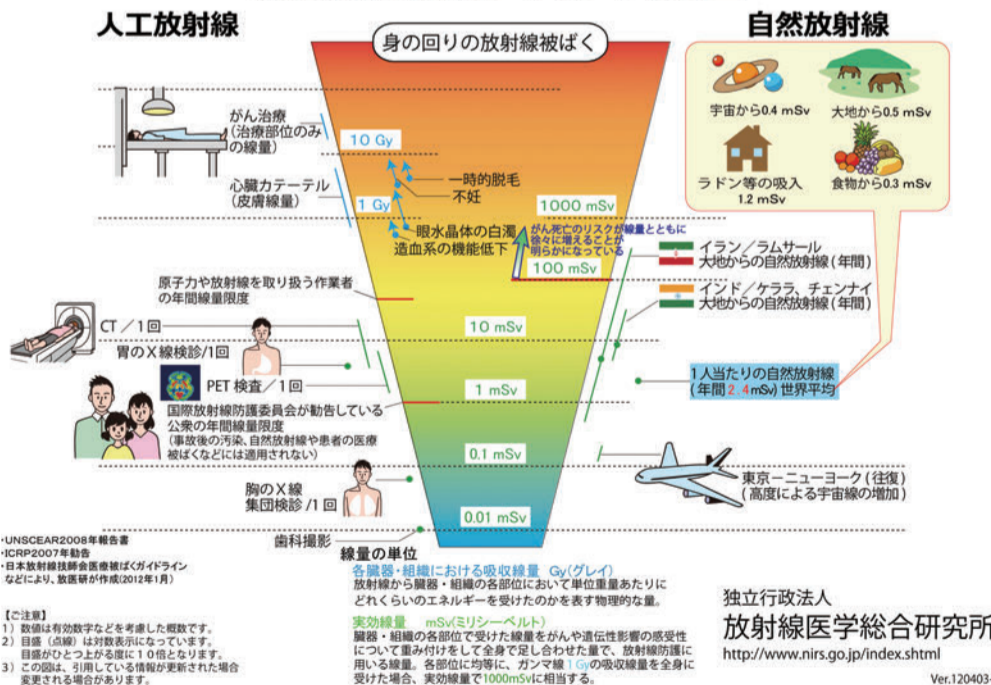
A. 右の図は、身の回りから受ける放射線の量を表した図です。中央のブルーの枠囲み「1人あたりの自然放射線(年間2.4mSv)世界平均」というのは、普通に生活して自然界から受ける放射線の量です。

右上のふきだしの中には、世界平均の場合の被ばくの内訳が書いてあり、宇宙から0.4mSv、大地から0.5mSvとなっています。これらは体の外から放射線を受けることによる被ばくで、外部被ばくと呼ばれます。また、食物から0.3mSv、空気中のラドンから1.2mSvとなっています。これらは体内から受ける放射線(内部被ばく)です。

こうしてみると、自然に存在する食べ物や大地からも放射線が出ていて、私たちは体の中からも外からも、弱いながらも放射線を受けながら暮らしていることがわかります。

※1:図の「被ばく」とは、「被曝」とも書き、放射線にさらされることを意味します。爆撃(特に原子爆弾)を受けることを意味する「被爆」とは、異なります。

## 放射線被ばくの早見図



詳しくはインターネットで **コープネット** 検索

<http://www.coopnet.jp/radioactive/index.php>



co-op deli  
コープデリ